



## 水っ子

鳥越皓之

「水っ子<sup>タツ</sup>」とよびたい人たちがいる。なによりも水が好き  
な人たちのことである。青森県の方言では、河童のことを  
スイッコというが、水っ子はまさに河童のようだ。

私は長い間、水の研究をしてきたので、学部ゼミや大  
学院には、いつも水っ子が混じっていた。かれらはなによ  
りも水が好きである。それは歩いていて、川に行くわすと、  
ワーと感動し、湖に行くわすと、ワーと感動し、井戸に出  
くわすと、頭を井戸に突っ込む人たちである。

少年・少女にも、水っ子がかんまりそうだ。高校生であ  
った関野真紀子さんも水っ子の一人で、高校時代、柿田川  
についてのすばらしい「卒業論文」を自主的にしあげた。  
その内容は豊富な図表と写真。一部の図表は一字一字を丁  
寧に手書きしたものである。柿田川をどれだけ丹念に歩い  
たかがよく分かる。彼女は静岡県に住んでいたが、どこか  
で私を見つけ出したのであろう、私が当時勤務していた兵  
庫県の関西学院大学に進学してきた。

私は水を研究してきたが、水っ子にはなれなかった。  
水っ子がうらやましい。水っ子を観察していると、かれら  
はあきらかに水と恋愛関係にある。こうした水と恋愛関係  
にある中学生や高校生の若い水っ子がいまも全国にまら  
がなく存在している。それは心強いことである。



**Hiroyuki Torigoe**

1944年沖縄県生まれ。大手前大学学長、早稲田大学名誉教授。元・日本社会学会会長、日本環境社会学会会長。著書に『水と日本人』（岩波書店）、『自然の神と環境民俗学』（岩田書院）、『花をたずねて吉野山』（集英社新書）などがある。